

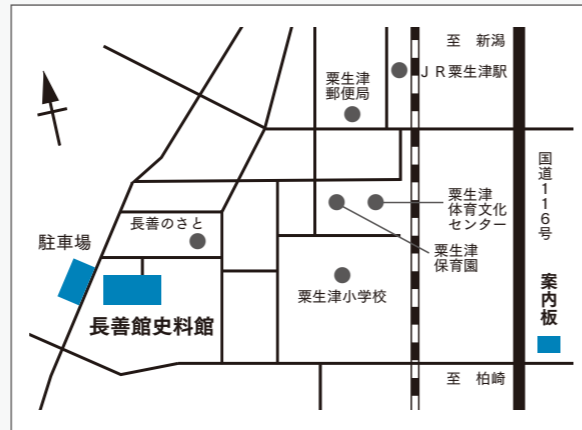
## 一 長善館史料館のご案内

大河津分水通水 100 周年を前に、長善館の歴史や門下生の功績をより詳しく学んでみませんか。

長善館史料館では、実際に使われた教科書や門下生のノートなどの貴重な資料を展示しています。

長善館史料館 ☎ 0256・93・5400

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
- 入館料 小・中学生、高校生…50円  
一般…100円



### マンホールカード配布中！



吉田地区のデザインです。長善館史料館の受付で配布しています！

※長谷川泰が普及に向けて尽力した下水道。その下水道への理解・関心を深めてもらうために配布しているカードです。



▲長善館史料館。長善館の土蔵があった場所に建てられています。



▲定期的に企画展を開催し、展示物の入れ替えも行っています。

## 一通水100年関連事業紹介



市では、通水 100 周年に向けて分水路の恵みに感謝し、発展し続ける市を未来へ引き継いでいきます。ここでは、長善館関連の主な事業を紹介します。

- 人気長寿テレビ番組公開収録【詳細は4月下旬に公表予定】  
人気長寿テレビ番組の公開収録を行います。
- 声優朗読劇【詳細は6月公表予定】  
人気声優による、大河津分水の歴史を題材とした創作朗読劇により歴史と文化を伝えます。
- 大河津分水企画展の開催【長善館史料館：7～8月】  
長善館史料館を含む信濃川流域の6館が大河津分水をテーマに企画展を開催します。
- 燕大学「大河津分水」【7～10月】  
長善館の門下生の、通水までの奮闘についての講演会を3回にわたり開催します。
- 筑波大学による記念講演【8～12月】  
門下生の活躍について研究成果を発表します。
- 偉人漫画制作事業【令和5年3月刊行予定】  
長善館の創設者・鈴木文臺の功績を題材とした漫画を制作し学校教育などに役立てます。

## 一 動画の紹介

### ○越北之鴻都 私塾 長善館

元 NHK アナウンサー 国井雅比古さんによるナビゲーション形式で歴代館主の教育観や、門下生を紹介しています。



動画はこちら▼



### ○燕大学講義動画

2021年度に行った燕大学の全3回の講義を動画でご覧いただけます。



動画はこちら▼



## 長善館の価値とは？

### INTERVIEW

### 長善館は地域の宝です

長善館は地域の宝です。でも、この地域の住民であつても長善館のことについて、ほとんど知らない人がいるのも事実です。そこで、一人でも多くの人に興味や関心を持ってもらい、長善館のことを誇りに思ってもらえるように取り組んでいます。具体的には、小学3年生への講義体験や、保育園児と高齢者のカルタ大会、広報紙の発行などを行っています。

最近、粟生津公民館で会った中学生が6年前の講義体験のことを覚えていて声をかけてくれました。長善館を誇りに思う人が増えれば、地域の宝として守っていくことにつながると信じています。多くの人たちから、長善館のことを知ってもらいたいですね。



### INTERVIEW

### 長善館の教えや門下生たちの思いを学校教育へ

子どもたちは、伝統や文化をもとにした広い視野をもち、未来を創り出していくため、主体的に人生を切り拓く力や、他者と共に支え合い高め合いながら、新たな価値を創造していく力を身に付けることが重要だと考えます。

本市には、先人より培われてきた長善館の教えや、門下生たちの心という偉大な財産があります。

教育委員会としては、それらの財産を生かし、先人たちの情熱をつなぐことができるよう、地域に学ぶ活動をより充実させていきます。また、大河津分水通水100周年を契機に、長善館の創設者・鈴木文臺を題材にしたマンガを制作し活用することも検討しています。



## 一 筑波大学による長善館研究

平成24年、燕市で開催された鈴木虎雄博士の没後50年記念会に、筑波大学の中野目教授が招かれており、そこで市が長善館史料館の所蔵資料の調査を依頼したことから連携事業が始まりました。

整理された資料の目録は、市の図書館などに収蔵されご覧いただけます。



▲調査の様子

### INTERVIEW



長善館は、日本が近代化していく時代において、多くの優秀な人材を輩出しました。そこが、長善館を調査する最大の魅力です。長善館と鈴木家の研究については、全国的な学会レベルでも紹介するべきだと考えています。また、学則など教育に関する資料がきちんと残っており、教育史的にも大いに価値があります。

今後、まずは「文臺先生の学問」をしっかりとまとめ、それが地域でどのような意味を持ったのかということや、その学問を学んだ門下生たちについて丁寧に調査していきたいと思っています。

※1 初代館主・文臺の孫。長善館で学んだあと東京帝国大学で漢文を学ぶ。のち、京都帝国大学などで漢文を教授。文化勲章受章。燕市名誉市民。

※2 鈴木虎雄博士が東京高等師範学校（筑波大学の前身）の教授を務めていたため、当時の関係資料などを多く保管。